

令和7年度群馬県公立高校選抜合格発表



翠巒
Mini Press
第188号
2025/4/8

編集・発行
高崎高校新聞部

心境と新生活への期待語る

3月5日に、令和7年度群馬県公立高校入学者選抜の合格者が発表された。今年度の選抜も昨年度と同じ、2日間にかけて学力検査が行なわれる形式となった。高高校の倍率は1・31倍と、昨年から0・07ポイント増加した。合格発表も、昨年度と同じインターネット上での発表となり、高高校に訪れたのは合格者のみだったため、受け渡し会場は喜びと安堵の空気に包まれていた。

そこで合格者に、合格した際の心境や高校生活への期待を取材した。全体として、文武両道という目標を掲げる合格者や、学校行事への参加を楽しみにしている合格者が多かった。高校生活で自身の目標を達成できるよう頑張つてほしい。



喜びを分かち合う合格者たち



入学書類等を受け取る合格者

◇ ◆ ◇ ◆

〈質問内容〉

①現在の心境は。

②高校生活で期待していることとや、やりたいことは。

松井佑晃くん（藤岡北）

①受検前日に発熱してしまい結果に不安を感じていたため合格が判明したときは思わず叫びたくなるほどうれしかった。

②数学が得意なため、数学の授業を特に楽しみにしている
また、マンドリン部に入れた

「ともに高高健児を鼓舞しようではないか」

應援部募集



援舞をする角田くん

高高には、独自の魅力をもった部活動が多くある。應援部もその一つだ。そこで、今回は第漆拾參代應援部の主将である角田文武くん（旧2の5）に話を聞いた。

まず、應援部の概要について、「我々應援部は、七十三代の歴史を誇る伝統ある組織だ。近年の主な活動としては全校行事における“校歌”お

よび“應援歌・翠
轡”や“富士の白
雪”歌唱時のリー
ダー、ならびに各
種スポーツ大会の
応援を担っている
さらに、我々應援
部の晴れ舞台であ
る、“定例リーダー
公開祭”では、伝
統的の援舞（えんぶ）

を披露し、その技と精神を体現している」と話した。

また、應援部の魅力は、「高高を応援できる」という点にある。本年度で第127期生を迎える高高は、先人たちの志を受け継ぐ伝統校であり、日本を先導する人材を育成する群馬県随一の高等学校だ。そのような誇り高き健児を応援できることは、我々にとってこの上ない名譽だ」と語った。

最後に、「我々の鍛錬は過酷を極めるものではあるが、常に高高の誇りを胸に刻み、應援部員として全身全霊を尽くす覚悟を持つ者の入部を待ち望んでいる。ともに、高高健児に豪気を与え、その闘志を鼓舞しようではないか」と締めくくった。（樋口）

(樋口)

経験する翠巒祭が楽しみだ。

清水瑛月くん（小野）

①無事に合格することができて安心している。

②中学ではサッカーのクラブチームに所属していたため、高高でもサッカー部に入り活躍できるよう頑張りたい。

寺西堅くん（塚沢）

①自信があったため、落ちていた合否を確認できた。合格できてうれしい。

②全ての学校行事が楽しみだ
積極的に参加していきたい。

①緊張しながら合否

た。合格と分かると最初は驚いたが、段々うれしさが込められてきた。

② 牽絆笏か楽しみた。また サッカー部に入り、レギュラー目指して頑張りたい。(新井)

NOTE

「孫子」という書物を知っているだろうか。孫子とは、古代中国の軍事思想家である孫武の作とされる兵法書で、現在も世界で高く評価されているものだ▼孫子は、優れた指導者の資質として、智（知恵）、信（信頼）、仁（思いやり）、勇（勇氣）、嚴（規律）を挙げている。高高では、生徒が次世代の指導者を担う力と豊かな人間性を得られる学校像を目指している。指導者のあるべき姿を指し示す点で、高高は孫子の兵法と通ずるところがある▼孫子の兵法には「勝兵は先ず勝ちて而る後に戦い、敗兵は先ず戦いて而る後に勝を求む」（勝利する軍隊は戦う前に勝利の条件を整えているのに対し、敗北する軍隊は戦いながら勝利の方法を探す）という一節がある▼高高生には大学受験や高前定期戦、部活動の大会やコンクールなど、勝たなければならぬ「戦い」があるはずだ。孫子が言及する戦争と高高生の戦いは必ずしも一致しないが、戦う前に勝利条件が何であるかを確認し、万全の準備をすること。これが重要でなければ、何が重要であるというのだろうか。ぜひ高高生は戦う前に一度、孫子の兵法を学んでほしい。（荒井）

井
